

福祉は文化

施設内美術館 新光苑美術館

第7回 八代亜紀 馥郁たるソナタの響き

八代亜紀(1950年(昭和25年)8月29日- 2023年(令和5年)12月30日)は、熊本県八代市出身で、1971年に歌手デビューし、ヒット曲「雨の慕情」「なみだ恋」「舟唄」などで知名度を上げ、演歌の女王として心に残る名曲を数多く残した。艶の声色、その情熱的であたかも情念さへも感じられる歌手表現に、多くの人々は魅了され続けた。

音楽の世界だけでなく、八代は絵画でも実力を発揮したことで知られている。1998年にフランスの公募展「ル・サロン展」に初入選し、その後も連続入選して永久会員として認められている。絵画の特徴としては、感性豊かで繊細な筆致と独特の超現実主義の表現で高い評価を得た。そして、演歌の枠を超えた高い歌唱力、絵画芸術を通じての地域づくりや文化振興に多大な貢献を果たした。

八代自身は、絵に関して「元画家志望だった父親の影響により、小学生の頃は将来画家になるつもりだった。また父親も実は、娘には歌手ではなく画家になってもらいたかったという」(「encore」での対談)と語っている。その後、長年の趣味として水彩画を描いていたが、フランスの「ル・サロン美術展」での銀賞受賞などで脚光を浴びていた写真家・市川元晴に師事したことを機に、油絵に力点を置くようになる。

市川の指導を受け、写実的な油絵を探究し続けるとともに、国内に留まらず国外での絵画表現と発表の場を求めるようになる。その後、フランスの由緒ある「ル・サロン展」に1998年から5年連続入選し、日本の芸術家として初の正会員(永久会員)になるなど、絵画芸術分野での高い評価が、芸術家「八代亜紀」の名前を轟かせることになった。

歌と絵の関連性について問われた時、八代は「歌うことも絵を描くこともエネルギーがいる。私の場合は歌という肉体労働で酷使した自分を、絵を描くことでマッサージしている感じ」(「encore」)と語っている。その温かみのあるユーモアとともに、芸術家としての興味深い一面を感じさせるのである。

新光苑美術館が収蔵する、八代亜紀「花のソナタ」(油彩F15)は、八代芸術の神髄を表現しているとしても過言ではない。イーゼルに置かれたキャンパスには百合や薔薇、カスミソウや麦の穂、カーネーションやチューリップなど彩りに満ちた花々や植物が黒地に描かれている。白布で覆われた机には、エミール・ガレ風に設けた縦長のランプ、ガラス皿に美しいサクランボ、楽譜とヴァイオリンが置かれている。背景壁は、淡い紫や青緑、黄色で塗り込まれ、空間全体にシャボン玉が浮かんでいる。右下には赤文字で筆名が記されている。

植物の各部位は仔細に描かれ、その描写性は極めて高く、前方のランプを構成する各箇所部品の一つ一つが緻密に表現されている。筒状のガラス部分の直線曲線やサクランボを包むガラス細工の風合いは、シャボン玉の浮遊感とも共鳴しあいながら、独特の透明感を放っている。キャンパスの黒色が作品全体の意識を画面中央へと収斂させる効果を有している。具象的静物画の極致にある作品であると同時に、複雑な構図であるがゆえに鑑賞者の視線の移ろいを促すような動的な側面が見られる。これらの点に八代の「全て」を感じる事ができる。まさに、各部分の融合と調和を繰り返しながら、柔らかな筆致が馥郁たる花のソナタを奏でているのである。(Y)



八代亜紀「花のソナタ」油彩 F15

国宝 聖天様の節分会 2月3日

妻沼聖天山の節分会は福男福女が参加して、聖天様に置かれている袴を着せて頂きます。奥の院の本坊本堂で祝三法の儀が執り行われます。蠟燭の光の中スピリチュアルな儀式です。大広間に戻りご参加者一同祝杯を挙げた後、はら貝の山伏を先頭に万灯行列、お坊さんのお練り、福男福女の順に隊列を組み聖天山本殿に参ります。ここでは大般若経が読経されます。



その後本殿の回廊に福男福女が出て、節分会にお集まりの皆様には「福は内、鬼は外」と福男福女が持参するお祝いの品を撒きます。国宝聖天山の節分会は聖天様が皆さんの心をついに纏め心豊かなひと時を作つて下さいました。(H)

第2回熊谷駅ピアノコンテスト

昨年大好評だった第1回熊谷駅ピアノコンテストでは62組の応募があり、ファイナリスト11組が熊谷市立文化センター文化会館で素晴らしい演奏を披露され、熊谷高校2年生の小林幹太さんがグランプリを獲得されました。

今年も第2回熊谷駅ピアノコンテストが開催されます。5月7日~7月31日まで熊谷駅ピアノでの演奏動画を募集いたします。応募されたすべての演奏動画を8月に次審査をし、10組程度が選ばれます。10月12日(土)に熊谷市立文化センター文化会館で最終審査のための演奏を披露していただきます。最終審査では観客の皆さんも審査員として票を投じるのですが、これも大好評でした。今年もすでに何組か応募したいと考えています。熊谷市賑わい創出を目的として設置され、熊谷駅ピアノ実行委員会により、定期的にメンテナンスも行われている熊谷駅ピアノです。皆さんで盛り上げていきましょう。(O)



2月17日(土) 木曾路にて対面句会

一粒の麦句会とは現役で活躍していらっしゃる方が多く、まだ吟行をした事がありません。吟行は特に遠くに行く必要はなく、仲間と一緒に歩いて、句を作ればいいのです。熊谷にはそういう場所に恵まれているはずなので、一度、吟行の楽しさを味わって欲しいと思います。

会員近詠
十七歳若業に負けぬ眩さよ
上出来の酢味噌たつぷり蜜鳥賊
決め難き案件ひとつ花の雨
桜茶に両家の揃ふ百千鳥
船遊富士の雄姿を目の当たり
母の日の母と並んバナナ食ふ
以上 飛鳥蘭 選


季香 翠子 遊清 遊美 美恵 遊美 遊清 翠子 季香

一粒の麦句会

吟行しよう
飛鳥蘭

桜
小江川の里山に春を運んでくる千本桜が今年もまた、迎りをピンク色に染め、満開になりました。小麦の会も綺麗に咲き、私を迎えてくれました。

来年は里山桜ツアーを組んで小麦の会の皆さんと一緒に里山へお出かけしませんか? (K)



認定NPO法人くまがや小麦の会第18回定例総会開催 令和6年6月15日(土) 於: マロウドイン熊谷

皆様の御協力を頂き、第18回定例総会を迎える事が出来ました。18年前熊谷商工会議所女性会の事業として、熊谷の特徴を生かしたもので熊谷を活性化していきたいと話し合いを続けておりました。小麦の収穫量が本州一番、すてじうんは熊谷うんととして取り組まれている。では地粉、うどん、ケーキ、地粉サブレ、パンとして取り組んで行こうと熊谷商工会議所として、相応しくなるとの結論になりました。そこで市民団体として「くまがや小麦の会」が18名で平成18年12月に発足する事になりました。

平成24年4月税制の変更により3000円以上の会費を納入する会員が年間100名以上在籍する会は、会費が寄附と認められ、寄附額の50%程度の税額控除が受けられる。認定を受ける方法の二、絶対的基準値で認定を取得したいと考えました。発足6年目小麦の会は会員数が100名近く在籍していましたが、そこで北部地域振興センターに相談してNPO法人として法人化致しました。

平成26年2月埼玉県知事より仮認定NPO法人の認定が下りました。平成28年3月認定NPO法人として認定されました。令和3年3月第1回目の認定の更新を受けました。全国のNPO法人で認定を受けている法人は2%です。3000円以上の会費を納めて下さる会員が100名以上在籍する事の難しさが判ります。会員の皆様は18年に渡り会費をお納め頂きました事に深く感謝申し上げます。会員の皆様からも、確定申告に小麦の会の領収書を使って会費の半額税の控除を受けているとどうと大変嬉しい、会の存続が会員数なので、多くの方に理解を頂き、小麦の会の熊谷活性化活動を続けて参りたいと存じます。認定NPO法人のシステムのご活用を御願ひ申し上げます。

*アトラクションは原田勇雅さんのバリトンコンサートでした。大きな会場でお聴きすると違って圧倒的な音量が室内の空気を伝わって届きます。サロンコンサートは又素晴らしい体験でした。ピアノがご用意できず申し訳なかったのですが電子ピアノをご持参くださいました。ピアノの宮本さんはエレガントなコスチュームで花を添えて頂きました。

*10月21日(月)市村良三前小布施町長長の追悼小布施バスツアーを計画しています。4ページに詳細が記してあります。皆様御参加の程お願い申し上げます。

*ジャンケン大会の優勝者は立正幼稚園園長高橋先生でした。おめでとうございました。(H)



ゆうえん
亡き人に心をこめて JAくまがや指定
生花祭壇 生前予約券 ゆうえん友の会
〒360-0813 埼玉県熊谷市円光 1-17-13
TEL: 048-525-5444 FAX: 048-525-5446

立正幼稚園
令和元年より認定こども園立正幼稚園となりました
森のある幼稚園によこそ立正幼稚園
〒360-0014 熊谷市箱田2-2-8
TEL: 048-521-0334 FAX: 048-521-4506

株式会社カミノ塗装
お見積り無料
お住まいの塗替えをお考え、塗装業者をお探しでしたら、カミノ塗装にお任せ下さい！
TEL: 048-523-1739

株式会社 平松
代表取締役 日向研一郎
歴史が育む無限の可能性...地域密着・食品卸売業
〒360-0801 埼玉県熊谷市中奈良1797-1
TEL: 048-521-0026

近江屋酒店
熊谷の風土と歴史の香りをお届けします
定休日: 日曜日
http://www.omiyasaketen.com

ビーエム観光株式会社
安全快適なバスの旅は 観光バスの醍醐味
TEL: 048-522-9827 FAX: 048-523-9423